



多忙化解消と 教育条件の整備を

各市町教委と校長会への要請

多忙化解消と労安体制の確立、そして教育条件の整備の必要性が強まる中、尾北教労は、7月に各市町教委と管内校長会への前期要請を行いました。そこで示された、各市町や学校における取り組みや今後の方向性について、要旨を以下に紹介します。

部活動の改善

中学校の多忙化解消を図る上で、部活動の改善は大きな課題であり、県の多忙化解消プランでもとりわけ重視されています。今回、尾北教労からの要請に対して、

◎「丹葉校長会で確認した5つの目標をまずは実現する」「その他の改善方向を今後検討していく」

という見解がどの市町でも示されました。また、具体的な今後の方向性や取り組みとして、市町によっては、以下のような内容が示されました。

- ◎「平成30年度には朝部活をなくす」
- ◎「外部指導員に任せ、顧問がなくなってもいいようにしてほしい」

◎「夏季(1学期)は、最終下校時刻を、6時30分から6時にした」

また、県で「部活動のガイドライン(具体的な基準)」作成の作業が進めれていますが、各市町でも「ガイドライン」を早急に作る事が求められています。尾北では、教育委員会がリーダーシップを発揮し、

◎「多忙化解消検討部会(校長の代表)」で『校内部活動運営ルール』を作成する(大山市)

◎『ワーキンググループ(校長・若手と中堅教員・事務職員・保護者の各代表)』で『部活動ガイドライン』を検討する(扶桑町)

といった取り組みが始まっています。

業務内容や行事の 削減や見直し

多忙化解消に向け、各市町や学校できまざまに取り組まれていると思いますが、今回の要請では、以下のような取り組みや方向性が示されました。

◎「懇談会がある学期は、通知表の所見を特記事項のみにした」(岩倉市・扶桑町)

◎「新任研修の際の事後報告が、研修会場で書いて提出する形式になった」

◎「学校によっては、11月に学芸会、2月に学習発表会と発表会が2回あったが、準備や練習で授業を使うことになるので、2月の学習発表会だけにして、授業がきちんとできるようにすることもある」

※丹葉地区校長会で確認されている

部活動の改善目標(平成27年度より)

- ①平日の朝部活を、週1回は、なくす。
- ②平日の帰りの部活を、週1回は、なくす。
- ③土曜日と日曜日の部活は、どちらかの日を休みにする。
- ④土曜日もしくは日曜日の部活は、午前か午後の半日のみにする。
- ⑤長期休業中の部活は、土曜日と日曜日を行わない。

割振変更簿 設置と運用

多忙化解消の取り組みと同時に、時間外勤務の割り振りがきちんと行われることも重要な課題です。

県教委は、すでに「割り振りは口頭のみでなく、客観的な方法で行うことが望ましい」という見解を示し、多忙化解消プランの中では、さらに「小・中学校の校長が割振変更簿の整備と運用を行うよう」各教委と校長に呼びかけています。

個人別の割振変更簿の設置により、「校長から指示された割り振り対象の業務と割り振りの時間」に合わせ、年休を申請するときのように、それぞれの先生が割り振りをとりたいときに用紙に記入して「割り振りをお願いします」と割り振りを申請することができます。

個人の希望する日に、だれもがとりやすくなる方法だと言えます。

尾北では、すでに個人別の割振変更簿を設置・運用している学校もあります。

組合の要請に対しては「県のプランで示されたので、今後は設置する学校が増えると思う。」と見解が示されたり、管理職の手持のメモでなく、個人別の割振変更簿の設置を検討するところもみられました。

また、割振変更簿を設置するだけでなく、職員に分かりやすく説明し、実際に使えるようにしていくことも求められています。

在校時間記録 機械化・電子化

過労死の問題が社会で大きな問題になっている昨今ですが、教職員の勤務実態も同じ問題を抱えていると言わざるを得ません。

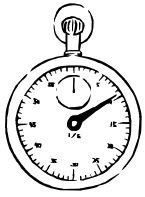
長時間労働の問題を検討するには、まずは実際の勤務時間が正確に記録されていることが重要になってきます。現状では、在校時間記録表を用いて、勤務時間の実態把握の取り組みが行われています。しかし、実際には、忙しい毎日の中、在校時間記録表を月末にまとめて記入することが多く見られます。

さらには、仕事が多いため残業しているのに関わらず、「80時間・100時間を超えないように」と管理職から言われるあまり、記録表に正確な時刻が記録されないという実態も見られます。

「勤務時間の正確な記録」を最重視するのなら、やはりタイムカードやICカードといった機械化・電子化の方法に切り替えなければなりません。尾北教労からの要請に対して、

◎ 「指紋認証システムの導入」

◎ 「各自のパソコンで、勤務開始の起動時と勤務終了のシャットダウン時で、自動的に時刻を記録」



と、市町によっては、具体的な改善方向が示されたところもありました。多忙化解消の取り組みに合わせ、機械化・電子化による簡単で正確な記録方法へと舵を切る時期に来ていると言えます。

学校訪問の簡素化 指導案と指導助言

学校訪問の簡素化は、多忙化解消のためにも強く求められています。

県内では、今年度から「学校訪問の公開授業の指導助言をなくす」(豊田市)、「小さい学校は、指定授業を隔年で行う」(稲沢市)ところもあり、すでに公開授業の指導案を簡略化している市町もあります。

尾北では、尾北教労からの「公開授業の指導案と指導助言をなくし、授業参観のみにする」という要請に対して、

「指導案をA4両面からA4片面にするなど、できることから簡素化していきたい」といった見解が示された市町教委もありました。

お盆期間休校 留守電話対応

尾北の全ての市町で、夏休み中のお盆期間を休校にして、日直を置かない取り組みが進められています。多忙化解消にもつながる取り組みだと言えます。

扶桑町では、すでに数年前から取り組んでおり、今年度は、休校期間に行ってきた

学校の留守電話対応を、平日にも対応できるよう進められています。

小学校で夜7時から、中学校で夜8時からいをもとに留守電話に切り替えるという事で、職員にとっても、遅くまで学校に残らないようにするための意識化につながると考えられます。

スクール ソーシャルワーカー

いじめ・不登校などへの対応に加え、貧困問題による学業の困難、それに対する支援が求められています。

担任が、家庭の問題や保護者への対応に直接関わることは、大きな負担であり、保護者との信頼関係に支障が生じる恐れもあります。学校と家庭の間に入って、専門的に対応してくれるスクールソーシャルワーカーの配置が強く求められています。

今年度、江南市で2名(1名分の予算)、扶桑町で1名が配置されました。また、大口町では、県のスクールソーシャルワーカーを活用しています。他の市町でも早急に配置することが求められます。

通級指導教室 階段昇降機

発達上の課題や障がいなど、特別な支援を要する子への条件整備の拡充が求め

られています。各市町によっては、新たに以下のように取り組みが進められています。

- ◎ 支援員の増員と通級指導教室【学習障害】の増設(岩倉市)
- ◎ 階段昇降機【移動キヤタピラ式】の設置(江南市・扶桑町)
- ◎ 弱視学級の 신설(扶桑町)

全教室エアコン 全トイレ洋式・床乾式

健全な学校生活に向けての条件整備として、エアコンとトイレの問題は重要な課題だといえます。

全教室へのエアコン設置は、大口町以外では、扶桑町で昨年より順次設置がはじまり、他の市町でも設置に向け、どう具体化するかを検討しています。

また、トイレは、洋式の増設に加え、全洋式化と床の乾式化へと、さらなる改善が進められています。同時に、全学校の職員トイレの温水洗浄便座設置も進められています。

★ 市町教委と校長会への要請書の全文、「教員の多忙化解消プラン」(県教委)は、尾北教労のホームページからご覧いただけます。「尾北教労」で検索)職場で困ったことなども、ホームページのメール等で相談ください。

